

# みたか環境ひろば 第12号

令和2年7月1日号



## 「新しい生活」と「食品ロス」

### ●「もったいない」精神で

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で来年への延期が決まりました。

そして外出自粛の生活が長く続いています。

時間に余裕ができた今、家の中の整理を始めました。

まずは台所から。なかなか手を付けられなかった保存食の確認をすると、奥の方にしまいこんでいたのは、賞味期限が1週間後に迫っていた缶詰や非常食。「もったいない」と慌てて夕食のおかずに加えました。

3月以降、ホテルや旅館などに仕入れられていた食品の行き場がない、子どもたちの学校給食のために心を込めて育てた野菜2.5tを廃棄しなくてはならない等の新聞記事やニュースを目にすると、新型コロナウイルス感染症をきっかけに急増する「食品ロス」に心が痛みます。その反面、「コロナ禍」に直面している生産者や事業者を応援しようと、ネット販売が大きな反響を呼んでいるようです。「食品ロス」問題への関心が高まっていることを感じます。

三鷹市では昨年「フードバンクみたか」が立ち上がりました。

フードバンクの役割は困窮世帯への食糧支援ですが、食品ロス削減の取り組みの一つでもあります。企業や団体、市民からいただいた未開封食品を福祉団体や個人に提供しています。

受け付けている食品は、①未開封で賞味期限が1か月以上あるもの。②常温保存可能なもの。

③お米（白米・玄米）、レトルト食品、缶詰など ※野菜などの生鮮食品、アルコールは不可。

我が家には、寄付できる食品はありませんでしたが、皆様のご自宅に眠っている食品はありませんか。「新しい生活様式」が求められるこれからは、買い物の際には使い切れる分だけ購入する、冷蔵庫内を整理整頓し食材を使い切るようにする、食べきれぬ量を調理して食べ残さないようにする等、先人の知恵である「もったいない」精神を大事に、自分ができる「食品ロス」対策と一緒に取り組んでみませんか。（小林）

【参考】フードドライブについて：[https://www.city.mitaka.lg.jp/c\\_service/085/085988.html](https://www.city.mitaka.lg.jp/c_service/085/085988.html)

### ●ご家庭の食材を見直しましょう

緊急事態宣言、外出自粛と今までに誰もが経験したことのない時期を過ごしました。

また、突然の行事や会議の中止にも戸惑いました。

そこで、買い込んで気がつけば期限切れで捨ててしまう食品ロスを見直そうと、家買い置きしてある調味料、食品を全て出して、賞味期限を確認し、日付の早い順に消費していくことにしました。いつものメニューではなく、賞味期限に沿った食品でメニューを考えるということも楽しかったです。思いのほかたくさんの缶詰、乾物が出てきました。頂き物も箱のまましまっていました。まだ2年ももつものでしたが、見ておいてよかったなと思いました。

しかし、3か月もの間、手に入らずに探している「ドライイースト」が今もお店にないことには、びっくりしました。結局、これに関する食材は、残ってしまいました。

梅雨前に賞味期限の見直しをしてみて、仕舞い込まず常に目に触れるところにおいて、その食品を中心にメニューを考えていこうと思います。皆様もご家庭の食材を見直してみてもいいのではないでしょうか。（大平）



## 「誇らしい手作りマスク」

新型コロナウイルス感染症は、いつになったら収束するのでしょうか？

予防対策で、マスクを着用することを日本人は当たり前のように思っています。相手にウイルスを移さない、対面している相手を不快にさせない、などの心配りやエチケットは日本人の文化なのではないでしょうか。

去年、東欧に旅行で行って来ました。「日本人はマスクが好きで、テロリストと間違えられるので、マスクを外してください。」と現地の添乗員から、怪訝な顔で言われました。不審者とマスクを着用している日本人が、同じ扱いにされているようで、気になりました。欧米人は、美を意識する文化だそうです。マスクを着用している日本人は、なぜか神経質な人々に見えたのでしょうか。新型コロナウイルス感染症は、マスクの着用で予防効果があるようです。日本人のマスク着用が世界の人々に認められたこと、とても誇らしく思いました。手作りマスクをしている人も、たくさん見かけるようになりました。日本の裁縫技術は、家庭科の授業があったからだそうです。マスク不足に対応している、日本人の底力を見たように思います。早く安穏の日々が戻ってくれることを思うばかりです。（上野）



## 「おいしい農産物は近所で見つけよう～直販マップ」

J A東京むさし三鷹支店では、地産地消の大切さと都市農業を市民の方々により知っていただき、触れ合ってもらうために「直販マップ」を発行しています。

直販マップには、市内各農家の農畜産物直売所はもちろん、市民農園やブルーベリーの摘み取り、イチゴのもぎ取りの情報などが掲載されています。

また、三鷹市の歴史や農業についての特徴、そして①景観創出機能②交流創出機能③食育・教育機能④地産地消機能⑤環境保全機能⑥防災機能といった都市農業の6つの機能の紹介なども掲載しており、さらに旬の農畜産物や特産品が一目で分かるように旬のカレンダーも掲載しています。

この直販マップを活用することで、旬の農畜産物を旬の時期（旬産旬消）に味わえることができます。旬産旬消を行うと環境負荷の高い食材の輸入や、工場での生産を減らすことができ、いわゆる「エコ」にもつながります。

直販マップは、三鷹緑化センターや市内J A各支店に置いてあります。この時期は、三鷹自慢の夏野菜（キュウリ・ナス・トマトなど）やブルーベリーの摘み取りが旬を迎えています。新型コロナウイルス感染症の影響で思うような外出が出来ない中ですが、直販マップをご活用頂き、旬の新鮮な農畜産物を自宅で大切なご家族と味わってみてください。（J A東京むさし 加藤）



★直販マップ★

### ★★★ 過去のエコミュージカルを公開しています ★★★

「みたか環境活動推進会議」と市は、6月の環境月間に合わせて、楽しみながら環境保全の大切さを学ぶことを目的に、エコミュージカル公演を行っています。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため公演を行いませんでしたが、YouTubeの三鷹市公式動画チャンネルで、過去に公演したエコミュージカルの様子を公開しています。

ご家族でご覧いただき、地球環境を守ることの大切さを考えてみませんか。

演目：「ブレーメンの音楽会 エコミュージカルコンサート～水は地球の『いのち』～」

出演・映像提供：メルヘン・ミュージック・シアター日本芸術企画 構成脚本演出：いづみかほる

公開ページ(YouTube)：<https://www.youtube.com/watch?v=XWmcNNOQ9xQ>



### 編集後記

新型コロナウイルス感染症の渦の中、如何お過ごしでしょうか。三密を避け、生活パターンの変化を感じる日々が続きます。3日に一度の人の少ない時間を見つけ、マスクをしての買い物。公共施設の休館等、外出を控えた家中での生活により、季節感が段々と薄れてきた気がします。路の片隅にこんもりと青々とした紫陽花を見つけ、なぜかホッとしました。紫陽花を覗いて梅雨が訪れ本格的な夏に向かっていくのに気付かされます。衛生面に十分注意し、感染症、食中毒を防止して規則正しい生活を心がけたいです。“コロナに負けるな！”（平澤）

今回の発行は令和2年10月の予定です。

発行：みたか環境活動推進会議  
(愛称 みんなの環境)

連絡先：三鷹市生活環境部環境政策課

電話 0422-45-1151 内線2525

E-mail:kankyo@city.mitaka.lg.jp

本誌は、市役所、市政窓口、図書館、コミセンや市のHPから入手できます。